

2018年8月18日

コンテンツツーツーリズム学会 研究論文 募集

コンテンツツーツーリズム学会では、適宜研究発表の論文を募集しています

各回の応募登録締切り、論文提出締切りを、ご確認いただき、ご準備をお願いいたします。

発表論文は、広く「コンテンツツーツーリズム」に関連した学問的研究であれば、研究方法・対象領域を問いません。発表に際し、次回発刊予定の『コンテンツツーツーリズム学会論文集』に掲載させていただきます。

さまざまな立場からの、さまざまな学術分野からのアプローチによる研究論文を歓迎します。

【応募要領】

1. 趣旨

コンテンツツーツーリズムに関する、事例研究および理論的・実証的研究の成果を研究大会および『コンテンツツーツーリズム学会論文集』により広く内外に発信し、コンテンツツーツーリズムの研究の深化、普及、地域活性化に寄与することを目的とします。

2. 応募資格

本学会の会員、または研究大会を機に学会に入会する者。

各研究発表会で本人が発表できる者。

研究者、大学生、大学院生、専門学校生、国・自治体職員、企業社員などの資格は問いません。

3. 応募上の制限

他学会、他誌との二重応募は禁止します。本研究大会で発表し本誌に掲載された論文等を他誌に投稿することは原則としてできません。

4. 論文原稿と研究発表

- (1) 論文は日本語とし、12,000字(本文、注釈、参考文献、図表を含む。A4、40×38、8ページ程度)を上限とします。『コンテンツツーツーリズム学会論文集』執筆要領に基づいて執筆してください。
- (2) 研究発表は1人15分程度とします。パワーポイントによる発表をお願いします。

5. スケジュール

- 応募登録締切り: Web サイト・メーリングリストで告知します。
- 論文提出締切り: 登録者に直接連絡します。
- 研究論文発表: Web サイト・メーリングリストで告知します ※1人15分程度
- 査読審査: 論文提出者に直接連絡します。
査読の結果、一部修正を依頼する場合があります。
- 著者校正: (1回のみ。誤字脱字の修正程度)
- 発行: 年度末(予定)

6. 応募方法

(1) 応募登録

氏名、所属、連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)および「論文タイトル」を下記「コンテンツツーリズム学会論文集編集委員会」宛メールにて応募ください。

(2) 論文提出

論文提出はEメールに限定します。下記「コンテンツツーリズム学会論文集編集委員会」宛メールにて添付送信してください。メール受信を持って受理日とします。受理后、受領確認メールを送信します。

コンテンツツーリズム学会論文集編集委員会: mail@contentstourism.com

7. 投稿のカテゴリー

投稿のカテゴリーは「論文」「研究ノート」「調査報告」とします。各カテゴリーの差意は以下のとおりです。なお、編集委員会の審査によりカテゴリーを指定する場合があります。

- (1) 論文: 理論的、方法的に新規性を有する内容であり、まとまった研究成果を公表するもので、研究目的と結論とが明示されたもの
- (2) 研究ノート: 理論的、方法的に新規性を有する内容であるが、中間報告的な速報性を求める研究報告
- (3) 調査報告: 実証的論証を基礎にする報告

8. 投稿論文の審査

(1) 査読

投稿された原稿は、複数の査読者によって審査を行い掲載の可否を判定します。

(2) 査読判定の区分

- a) 投稿論文のまま掲載可。

b) 若干の修正のうえ再査読は不要で掲載可。

c) 修正のうえ再査読を条件として掲載可。また、再査読の結果、掲載不可もありうる。

d) 掲載の水準に達せず、掲載不可。

9. 著作権および著者の責任

掲載された論文等の著作権は、コンテンツツーリズム学会に帰属します。他の出版物に掲載する場合は、本学会の承諾を得なければなりません。

ただし、掲載された論文等の内容についての責任は、すべて著者が負うものとします。

【執筆要領】

I.原稿

1. ボリューム

12,000字（本文、注釈、参考文献、図表を含む。A4、40字×38行、8ページ程度）を上限とします。

2. 構成

- (1) 論文タイトル
- (2) 英文タイトル
- (3) 著者名
- (4) 英文著者名
- (5) 著者所属
- (6) 英文著者所属
- (7) 和文要約（500字以内）
- (8) 和文キーワード（5文字以内）
- (9) 本文
- (10) 参考文献リスト

3. 書式等

- (1) 書式はワードプロセッサで、A4、40字×38行と設定。
- (2) 本文はMS明朝10.5ポイント、タイトルはMSゴシック。
- (3) 図表は原則として1点あたり400字換算とする。

II. 表記

1. 文章表記

- (1) 文章は原則として、当用漢字、現代かなづかいを使用し、横書きとする。句読点は、「、。」を使用する（「、。」は使用しない）。
- (2) 外国の国名、地名、人名などは、漢字による表記が慣例となっている場合を除き、原則としてカタカナ書きとする。
- (3) 外来語、現地の度量衡および貨幣の単位は、カタカナ書き（全角）とする（中国を除く）。ただし、パーセントは記号（%）を使用し、図表では一般的な単位は記号（m、g、t、

ha など) を使用する。

(4) 数字は、原則として算用数字を使用する。ただし万以上の数字には万、億、兆を用いる。
なお、継続を示す場合は ~ を使用する。

(例) 3 億 500 万円、2008～13 年

2. 項目の区分と表記

大項目： I II …… (節に相当)

中項目： 1. 2. …… (項に相当)

小項目： (1) (2)

列挙項目： 1) 2)

3. 図表の表記

(1) それぞれ通し番号を付し表題をつける。必ず単位、出所を明記する。

(2) 表について注記が必要な場合には、出所を示したあとにつづける。

4. 注の表記と位置

注記は通し番号 1) 2) …… を付し、頁毎の脚注にする。

5. 引用の表記

本文中または注において引用箇所を表記する場合、章末に参考文献を一括配列 (邦文文献は五十音順、外国語文献ではアルファベット順) にしたものに基つき次のようにする。

(1) 参照を示す場合：

(例) 増淵 (2010) によると ……

(2) 引用頁を示す場合：

(例) ……」と述べている (増淵 2010、P.42)。

6. 参考文献の表記

(1) 参考文献は文末に一括して掲示し、その配列は次のとおりとする。

邦文文献の場合は五十音順、外国文献の場合はアルファベット順。

同一筆者で、発表年次が同年の場合は、著者名(2010a)、著者名(2010b)のように区別する。

(2) 参考文献の表記については、次のとおりとする。

a) 邦文文献

原則として、論文名は一重括弧「」、単行本名・雑誌名・新聞名等は二重括弧『』とする。

単行書：著者名(西暦)『書名』(シリーズ名) 出版社

(例) 増淵敏之(2010)『欲望の音楽—「趣味」の産業化プロセス』法政大学出版局

雑誌論文：執筆者名(西暦)「論文名」『雑誌名』巻号、出版社

b) 外国文献

著者名は原則として姓名を倒置する。

原則として、論文名は一重引用符「 ’ ’」、単行本名・雑誌名・新聞名等はイタリックとする。

単行本：著者名(西暦), 書名(イタリック), 版次, 出版地, 出版社.

雑誌論文：執筆者名(西暦), ‘論文名’, 雑誌名(イタリック), 巻号,出版社

以上